

## 第2回射水市総合計画審議会 会議録

○日 時 令和4年2月2日（水） 午前10時～11時35分

○場 所 射水市役所本庁舎3階302～304会議室

○出席者（敬称略）

（委員）

明石あおい、朝倉あゆみ、飯山進、岩口久梨果、上田秀永、牛塚松男、大坪清治、大西宏治、荻浦明希子、尾山春枝、加治幸大、門田晋、古池清一、笹川征一、鈴木真由美、高市洋介、塚本清、津田奈由子、釣谷隆行、樋上正之、二川由利子、牧田和樹、松本三千人、松本吉晴、宮城克文、宮田妙子、宮田雅人、うちリモート参加1名

※欠席委員

川原辰弥、木田和典、中崎圭子、森由佳子、亘建邦

（当局）

磯部副市長、金谷教育長、島多市民病院長、園木議会事務局長、小塚企画管理部長、一松財務管理部長、桜川市民生活部長、小見福祉保健部長、宮本産業経済部長、島崎都市整備部長、橋本上下水道部長、夏野会計管理者、原教育委員会事務局長、吉岡監査委員事務局長、木田消防長、中野市民病院事務局長、杉本企画管理部次長、盛光政策推進課長

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 議事

#### （1）第3次射水市総合計画基本構想骨子案について

政策推進課長	※資料1に基づき説明
会 長	現行計画は5部構成だが、時代潮流なども踏まえ4部構成、14章となっている。外出しの項目もあり、その置き方なども含めて部会での検討が必要になる。これは固定されたものではなく、意見を伺い、修正したうえで、各部会に議論を委ねてよいかを諮るものである。
会 長	説明いただいた内容で意見があれば出していただきたい。
委員A	たたき台は素晴らしいものになっている。これを実現するとなると最終的には財政の裏付けが必要になる。これから議論していくに当たり、財政を勘案しながらやっていくべきなのか。
企画管理部長	総合計画の策定と併せて策定する実施計画において、中長期的な財政見通しを勘案しながら反映させていく。現時点においては、今後の方向性を議論いただくに当たり、財政面の制約をかけていくことは避けたいと考える。
会 長	基本構想、基本計画の実現のための実施計画において、財政的な裏打ちを考えるため、まちづくりの基本方針、射水市の将来ビジョンの検討においては、財政的な縛りにとらわれず、自由な発想をしてもらいたいということだと思ふ。
委員B	主要課題が上がっているが、それらの課題の大元の原因は何であると認識しているか。例えば前回の計画であれば、人口減少が大元の原因という認識のもと、人口

	を維持をするために目標人口を設定して進めている。
会 長	今の発言の趣旨は、色々な現状から課題を抽出しているが、その原因となっているものに対応するための議論がないと課題の解決には至らないのでは、というものである。
企画管理部長	第3次計画の策定に当たり、第2次計画から変わっていないものとして、人口減少がある。その中でも東京一極集中、地方から都市部への若者の流出への対応が大きな課題であると認識している。また、射水市の特徴として、年々外国籍の方が増えてきており、多様性、多文化を認め合う環境を創っていくことも課題として目を向けていきたい。
委員 B	そうであれば、今回の計画が目指すところは「人口」になると捉えてよいか。県がウェルビーイング、幸せ人口 1000 万として、定住人口ではなく「関係人口」に舵を切っている。定住人口なのか、交流人口、関係人口なのかでターゲットが違ってくる。どこをターゲットにするのかということに、この計画の意義があると思う。
会 長	資料には目標人口が示されており、これは定住人口を想定していると思うが、関係人口まで人口と捉えると考え方が変わるのではないかと、という意見である。また、定住人口についても、居住している人たちの満足度、ウェルビーイングを目指すのであれば、目標人口を達成すればいいのかどうか、議論が必要になる。
委員 C	県の成長戦略の最初に「幸せ人口 1000 万」となっており、着眼点が違ってきている。今回の案では、関係人口は関連分野の例示の一つとして位置付けられているが、このように部分的に出すものではないと考える。関係人口をもっと前面に出さないと話がずれてくる気がする。事務局から外国人人口の話があったが、多様性を重視するのであれば、関係人口に力を入れて取り組んでいくべきではないか。
会 長	現行のたたき台では、関係人口は「にぎわいと交流のまち」に位置付けられているが、関係人口はここにだけ押し込められるものではなく、全体的なものではないかと、という意見である。外出しされている重点プロジェクトには、地方創生やDXなどが出てきているが、関係人口もこの中に入るような重要な概念なのではないか、という指摘である。
企画管理部長	委員の発言のとおりである。言葉足らずであったが、人口と申し上げたのは定住人口だけではなく、関係人口、交流人口を含めたものであると捉えている。居住する市民に幸せを感じていただくことが関係人口の創出につながるものであり、また、本市を訪れた方にも本市との関わりを深めていっていただきたい。このことは政策全般において意識していくべきものであると考えている。
委員 D	気になるのは、トレンドの言葉を入れて安心してしまっている感じがする。例えば「情報技術でつながるまち」は、これだけが方法、ツールであり、目標ではない。また、情報技術はすべてのことにつながるので、わざわざ章立てすることで他の分野と関わらなくなってしまうのではないかと。
企画管理部長	重点（共通）プロジェクトに記載しているとおり、DXの推進については全体にわたって俯瞰すべきテーマであると捉えている。「情報技術でつながるまち」という章立てがふさわしいかどうかについては、部会で改めて議論いただければと思う。
委員 B	関係人口がメインテーマになるのであれば、基本方針も関係人口のカテゴリーごとに作ってあげればいいのか。高齢者や若者、教育など、関係人口につながるようなカテゴリーで構成するほうが自然な気がする。
企画管理部長	たたき台で示している第1部から第4部の基本方針は、分野ごとに分けている。それぞれの基本方針にどの章立て、政策を位置付けていくかについては、部会において議論いただき、我々も検討を重ねていきたい。

会 長	各部のところに関係人口をどのように位置づけていくかを各部会で議論いただきたいという説明だったかと思うが、委員の希望とは少し距離があるようだ。ただ、基本構想として、射水市が自治体として取り組まなければいけないことを取りこぼしがないように全て入れるとこのような構成になるという側面はある。関係人口を中心に描いたときに取りこぼしがないようにするためには検討が必要になる。
委員D	基本方針－政策－関連分野という流れの中で、例えば子育てに関してはこの政策で議論すればいい、観光についてはこの政策で議論すればいい、となってしまう。資料の見せ方としてはこれでよいが、この分野はこの政策にも関連する、というような、関連分野の扱いがとても重要だと考える。関連する政策すべてに登場させるような扱いにしてもらえるとうれしい。
会 長	関連分野として位置付けられている政策だけで議論すればいいものではなく、他の部、政策でも議論が必要ははず、ということ、少なくとも委員の皆様と共有いただき、部会でもその認識で議論いただいたり、資料の提示においても意識していただいたりするとい。
企画管理部長	貴重なご意見でありがたい。部会ごとで委員の皆様の思い、意見を反映しつつ、共通理解を得ていただきたい。それぞれの政策、カテゴリーにこだわらず、関連する分野が横断的にあるかと思う。我々も、記載されていないから議論しなくていいという捉え方はしていない。3部会それぞれでとりまとめたいただいた内容を重ね合わせながら、調整したり掘り下げなければいけない部分を検討し、改めてお示しさせていただきたい。  (休憩)
会 長	再開する。論文を書く場合は複数の目的を持つことはなく、例えば関係人口であれば関係人口に絞るのだが、総合計画はそのような性格ではなく、総花的な部分と重要な戦略とをどのように書き分けるかということがポイントになる。一つは外出しにするという方法もあるが、全体の方針に反映させたいということもあり、その辺りの綱引きになる。
委員E	人口問題について、計画期間の10年の間には2025年問題があり、その後2040年問題といった大きな課題がある。これらを医療・介護の問題として捉えたとき、担い手が不足し、行政の対応が難しくなり、地域がどのように関わっていくかが重要になっている。その際、外国人による人材確保やそれに伴う課題等にどのように対応していくかも問われる。また、県の計画では、ウェルビーイングという思想が新たに提起されている。地域住民が同じ方向に向かい、テーマ・課題となることを見つけていくことが、この審議会の課題ではないかと考える。
会 長	総合計画で基本構想を立てていく上では、市民の最大公約数となる方向性を示すのが大きな課題であることは、今回、皆さんで共有できると思う。それを考えるに当たり、その担い手がいないと成立しないということも踏まえて将来ビジョンを考えていく必要があるという意見かと思う。この辺りは審議会で議論するには大きいので、各部会で議論したものを全体会ですり合わせる形のほうが意見交換しやすいと思う。
委員F	令和14年の目標人口を8万6千人とした根拠は何か。また、この数値自体が議論の対象になるのか。
政策推進課長	目標人口については、人口減少対策に特化した「射水市まち・ひと・しごと総合戦略」に合わせて「人口ビジョン」を策定しており、2060年に7万2千人を目指すものである。その推計に合わせ、総合計画の目標人口を8万6千人としたところである。
会 長	この数値自体が審議会で議論する種類のものかどうか、事務局の感覚としてはどうか。

政策推進課長	この目標人口は社人研の推計を参考に設定しているものであり、国勢調査の新しい数値により、社人研の推計値が変わってくるようであれば見直すこともあるが、今の時点では、人口ビジョンとの整合性を図るという意味で、議論の対象外としたかと思っっている。
委員 F	たたき台では、基本方針が4部構成となっているが、この部数についても、議論の上でこだわる必要はないという認識でよいか。
企画管理部長	4部にこだわる必要はない。今後の議論の結果、部数が変わることはあってもいいと思っっている。
会 長	議論の中身を踏まえ、4部の構成ではない、別建てのものが出てくる可能性は全く否定していないということである。
委員 C	目標人口を8万6千人と設定するに当たり、政策的な効果は考慮されているのか。政策的な背景は影響するのではないか。また、先日、企画管理部長と雑談した際に、今の時代はひとつの部署で完結することが難しい多様性のある時代になっているという趣旨の発言をされていた。総合計画においても、各部、各章が相互に関連・連携していくことが重要であり、計画づくりに当たっては、行政の各部署の連携をより深められたい。関係人口については、重点（共通）プロジェクトに入れることもひとつである。同時に、第2部第2章「支え合う福祉のまち」の関連分野として、地域福祉という項目をぜひ設けていただきたい。これからの福祉は、地域を抜きには取り組めない。
会 長	それぞれの部署でオーバーラップして対応しなければならない課題がたくさん出てきている。そうなると、横に切っているのではなく、縦串を差すようなしくみも必要になってくるのではないか、というのが意見の1点目。また、例示されている関連分野の中に、重点プロジェクトに入れるべきものがいくつかあるのではないか、という意見である。
企画管理部長	目標人口に政策的な人口増減が加味されているのか、という点について、政策的な人口増を含めたもので設定している。各政策の相互連携がこれまで以上に必要であるということについては、おっしゃるとおりであり、組織としての部局間の横断的な連携はもちろんのこと、政策立案の段階で、どのような政策が相互に連携し、相乗的な効果を生み出すのかにも目を向けながら、今後も進めていきたいと考えている。関係人口の取扱いについては、福祉や産業振興、環境保全など、いろいろな分野において関連するテーマであると考えており、重点（共通）プロジェクトに位置付けるのはもちろんのこと、今後、各政策において議論をしていく際にも、関係人口について留意していただければと思う。
委員 G	前回審議会において資料としていただいた第3次総合計画策定方針の中に、策定の留意点として、未来世代から選ばれるまち射水の実現を目指すことと明記されている。この「未来世代」とは、どのくらいの年代を想定しているのか。
政策推進課長	未来世代というと若い世代というイメージがあるかと思うが、そういった意味ではない。若い世代も現役世代も高齢者の方も、明日、満足度の高い未来を見据えるような世代ということで、ある一定の年齢層として捉えるのではなく、全市民という形で捉えている。
委員 G	市民の未来を創っていくために、DXの推進、カーボンニュートラル、SDGsということらをテーマに掲げていると認識している。これらのテーマは、小学校・中学校など学校教育の中でも既に勉強されている。これから創っていく未来において、やはり若い世代が活躍するようなことを考えてやるべきだと思う。その意味でも若い世代のアンケート結果を勘案することは非常に重要であると考えているが、回答率がとても低いと感じた。これから回収率をどのように上げつつ、4月以降、新たに対象となる人にもアンケートを取りながら、若い世代の意見をしっかりと聞いてい

	くことが大事ではないかと考える。
企画管理部長	引き続き、若い世代をはじめ、それぞれの世代の方々の意見聴取に努めていく。アンケートという手法を用いるかどうかは、これから検討していく。
委員G	これからの射水をつくっていくためのひとつの手法として、若い世代に対して、回答しやすい方法でアンケートを実施すべきであると考ええる。
委員H	さきほど会長から縦串という話が出たが、県の成長戦略にある「ウェルビーイング」をひとつの縦串として意識しながら、部会を進めていったらどうかと考える。
会 長	縦串に当たるものが何かということについては、今後、皆さんの議論や事務局の検討が必要になってくるが、県の成長戦略など関連するものを想定するほうが、取りこぼしのない、色々なものを含んだ豊かな計画になると感じている。
企画管理部長	ウェルビーイングについては、肉体的、精神的、社会的に満たされた幸せを実感できる状態であり、その観点を意識しながら、総合計画全般において、部会での議論を深めていただきたい。事務局においても、その観点到留意しながら作業を進めていく。
委員F	前回審議会資料の策定方針の中で、留意すべき点が 11 点示されているが、これらが計画全体を通じて常に意識すべき観点であり、横断的な串になるものとして、各部会の議論において、具体的に検討する事項として入れていけばいいと思う。
会 長	これから各部会で議論を展開していくことになるが、部会の議論の中でも、できる限り横断的な視点を意識していただき、議論に参加いただければと思う。
会 長	ここまでの発言内容を汲み取り、資料に反映させ、この枠組みをたたき台として部会に協議を諮りたいと思うがよろしいか。いろいろな意見が出ており、このままの形ということではなく、これはひとつのたたき台として、まずは部会に諮ってみるということで、この形で提案させていただく。
	(異議なし)
会 長	それでは、少し修正した後、部会に資料として提出させていただく。なお、修正の確認については、副会長、会長に一任いただけるか。
	(異議なし)
会 長	では、一任いただいたということで、よろしく願います。また、今日、発言できなかったこと、時間が経ってから気づいたことなど、意見があれば机上の様式を使って、随時、事務局に送ってほしい。併せて、机上には「射水市の将来像について」という様式が配付されている。これは計画期間である 10 年後の射水市の姿について、各委員の考えを伺うものである。こちらについても事務局に提出願いたい。文章でもイラストでも構わない。何枚提出してもよいとのことである。
会 長	それでは、本日の会議での指摘、次回会議までに準備するもの、回答が必要なもの等について、事務局から確認をお願いする。
事務局	本日の会議での確認事項は、特段ないと思っているが、何かあれば事務局まで申し出てほしい。
会 長	皆さんに課されている課題としては、将来像をつくるということになる。また、声を掛けていなかったが、リモートで参加されている委員もいる。一言あれば願います。
委員I	いろいろなことが網羅されているが、選ばれる市にならなければいけないので、その視点で、北海道の東川町のように人口が増加するよう、目玉になるような施策を各部会で議論していけたらいいと思う。また、インクルージョンの推進とある

が、これからは排除ではなく、包摂のほうに向けるような射水市になるといい。

会 長

今後、コロナ禍が収束を迎えれば、こういった対面での会議は容易に開催できるが、どういう状況になるかわからないので、その際には、リモートと対面を併用しながらの会議になるかと思う。委員の皆様にも協力をお願いしたい。

#### 4 その他

会 長

今後の開催日程について、事務局から説明いただきたい。

事務局

第1回部会の開催について、2月10日（木）午後7時から安全安心部会、2月15日（火）午後7時から未来創造部会、2月16日（水）午前10時から活力元気部会が開催される。会場はいずれも、射水市役所大島分庁舎3階大会議室である。第2回部会の開催は4月、第3回総合計画審議会を開催は5月を予定している。また、射水市の将来像に関するアンケートについては、2月18日までに提出いただきたい。

会 長

いよいよ来週から部会が始まる。射水市のまちづくりの方向性を決める重要な会議となるので、委員の皆様の専門的な知見で、積極的に発言いただきたい。また、先ほど、縦串を差すという話もあったが、他の部会の話を知りたいということがあれば、所属している部会以外の部会にもオブザーバーとしての出席が可能である。希望者は事務局まで申し出ていただく。

副市長

今日は2022年2月2日、2並びの日、春節そして友引であり、交流人口について話すにはこんないい日はなかったのではないかと考えている。資料で配付しているとおり、県にも総合計画、成長戦略があり、そこにはウェルビーイングや交流人口、関係人口1000万人ということが掲げられており、その中で市の総合計画を策定していく。委員の皆様には多くの意見を頂戴した。事務局としても、今後の議論の参考となる資料を作成、提出していく。今日、発言いただけなかった委員の皆様もぜひ部会でご発言いただければ大変ありがたい。引き続きのご尽力を賜ることをお願いし、あいさつとさせていただきます。

#### 5 閉会

以上